

会 議 録

会議名 (審議会等名)	第 1 3 回相模原市在宅医療・介護連携推進会議			
事務局 (担当課)	地域包括ケア推進課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 2 4 9 (直通) 地域医療課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 2 3 0 (直通)			
開催日時	令和元年 1 0 月 2 日 (水) 午後 7 時 3 0 分 ~ 午後 9 時 0 0 分			
開催場所	ウェルネスさがみはら 7 階 視聴覚室			
出席者	委 員	1 9 人 (別紙のとおり)		
	事務局	1 8 人		
	その他	3 人		
公開の可否	可	不可	一部不可	傍聴者数 0 人
公開不可・一部 不可の場合は、 その理由				
会議次第	<p>1 開 会</p> <p>2 議 題 (1) 会長の選出について (2) 各部会の報告 ・ 連携体制等に関する部会について ・ 高齢者救急に関する部会について (3) 在宅療養連携ケース「支え手帳」モデル事業のアンケートについて (4) 在宅療養パンフレットについて (5) (仮称) 在宅医療・介護連携支援センターについて (6) 県地域医療介護連携ネットワーク構築ガイドラインについて</p> <p>3 そ の 他</p> <p>4 閉 会</p>			

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開会

2 議題

(1) 会長の選出について

委員互選により、井出委員を会長に選出した。

(2) 各部会の報告

・ 連携体制等に関する部会の報告

資料をもとに佐藤部会長による部会の報告が行われた。

・ 高齢者救急に関する部会の報告

資料をもとに大塚職務代理による部会の報告が行われた。

(3) 在宅療養連携ケース「支え手帳」モデル事業のアンケートについて

資料をもとに事務局から説明を行った。

利用者用アンケートでファスナーケースに収納したものについての設問の選択肢の中に名刺を追加したほうがよいのではないか。

関係機関用アンケートで、利用した頻度ではなく、活用方法を聞いたほうがよいのではないか。例えば、1番目は「積極的に確認・記入した」、2番目は「まあまあ確認・記入をした」、3番目は「確認はしたが、記入はしなかった」、最後は「確認もほとんどしなかった」などのような聞き方がよいのではないか。また、活用の場面を問う設問で、受診の際などは当然のことなので、「御本人とその家族と相談するとき」、「ケア担当者会議の時」以外は、例えば、「利用者から手帳を提示されたとき」、「他の関係者に知らせたいことがある時」、「他の関係者から知りたいことがある時」などのような選択肢のほうが動機付けにもなり、活用されている様子が見えるのではないか。

アンケートのスケジュールについて、週1、2回しか訪問がないと考えると、回答期間が2週間というのは短いのではないかと感じるので、もう少し長くしたほうがよいのではないか。

大野中地区では支え手帳のモデル事業のためにケアマネジャーがよく頑張って記入するなど協力している。利用者とその家族だけでは、十分にアンケートの記入ができないことがある。アンケートの回収を増やすために、ケアマネジャーに手伝いをするように市から声がけをしてもらいたい。また、月末までにケアマネジャーは必ず利用者本人に訪問をするので、アンケート期間はその時まで伸ばして欲しい。

設問の選択肢や回答期限の延長については意見を反映する。

その他、意見がある場合は10月9日(水)までに事務局に提出することとする。

(4) 在宅療養パンフレットについて

資料をもとに事務局から説明を行った。

1月末が発行予定日となっている。意見がある場合は、10月31日(木)までに事務局まで意見を提出することとする。

(5)(仮称)在宅医療・介護連携支援センター(以下「連携支援センター」という。)について

資料をもとに事務局から説明を行った。

横浜市の設置数が18か所で人員が3名となっているということは、総計54名の職員が配置されているということか。

そのように理解している。

連携支援センターがどのような役割・業務を担うのか、またどのように今後の発展を見込んでいるのかによって人員配置や、できる事業内容が変わってくると思う。市役所に設置とあるが、人数が少なければ、引継ぎが大変になる。引継ぎがうまくいかなければ、せっかく立ち上げたものが、行き詰る可能性も否定できない。かといって人数を多数配置するとなると、募集業務やそれに係る人件費も大きくなる。連携支援センターでこれからの医療・介護連携を推進する事業計画を考えると、1名や2名では難しいのではないかと考える。今後、いろんな業務を各団体に委託をしていく可能性もあると思う。市では人員を絞った上で設置をしていくのか、また、どのように組織を作ったうえでマネジメントや啓発活動をしていくのかなどについての考えを教えて欲しい。

これから庁内での検討をしていく段階だが、市が担う場合であっても、全ての人材を市の職員として確保していくことは難しいと感じている。この会議の中でも、人員についてご意見をいただいた。看護師、MSWなどの医療に関する知識を有し、かつ、介護支援専門員資格を持つ者が望ましいが、市の中で継続的に確保できるかどうかということが課題となる。市では、連携支援センターにおいて、中立公平な立場を生かしてコアな部分を担っていきたい。市医師会や市病院協会の専門性や知見を生かしてもらえるところを部分的に担ってもらえるように連携していきたいと考えている。

市役所の中に新たに設置されるということか。

専門職の確保は難しい状況にあるが、4月に連携支援センターを設置するため、今後、関係部局と調整していくことになる。こういった業務が出来るかという点においては職員の配置状況によって決まってくると思っている。組織をどのようにしていくかは、現時点で、はっきりしたことは言えないが、現行の組織で言うと地域包括ケア推進課内にセンター機能を担う職員を配置してスタートしていきたいと考えている。

有能な看護師やMSWの人材は病院においても確保したいところであり、そう簡単には見つからない。現実的にできることから進めてもらいたい。

(6) 県地域医療介護連携ネットワーク構築ガイドラインについて

資料をもとに事務局から説明を行った。

また、情報があったら、報告してもらいたい。

3 その他

・さがみはら介護の日大会について

11月12日(火)にあじさい会館において介護の日大会が開催される。広瀬先生にコーディネートをお願いしており、「最期まで生きるを支える」をテーマにシンポジウムも開催される。

・在宅医療・介護連携市民講演会について

今年度は2月6日(木)の午後に南区の相模女子大学グリーンホールの多目的ホールで開催を予定している。今後、会議等でお知らせする。

4 閉 会

以 上

(別紙)

令和元年度 相模原市在宅医療・介護連携推進会議 委員名簿

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	伊勢田 明子	相模原市医療ソーシャルワーカーの会		出席
2	井出 道也	一般社団法人相模原市医師会	会長	出席
3	臼井 意	さがみはら介護支援専門員の会	職務代理 1	出席
4	大塚 小百合	一般社団法人相模原市高齢者福祉施設協議会	職務代理 2	出席
5	金子 智代美	一般社団法人相模原市高齢者福祉施設協議会	副会長	出席
6	木村 久美子	公益社団法人相模原市薬剤師会		欠席
7	佐藤 隼	相模原地区訪問リハビリテーション連絡会		出席
8	澤野 将文	相模原市介護老人保健施設協議会		出席
9	田代 真士	相模原市小規模多機能型居宅介護事業者連絡会		出席
10	田中 雄一郎	公益社団法人相模原市歯科医師会		出席
11	谷 えみ子	高齢者支援センター（地域包括支援センター）		出席
12	中野 太郎	公益社団法人相模原市病院協会		出席
13	早田 栄	高齢者支援センター（地域包括支援センター）		出席
14	久松 信夫	学識経験者（桜美林大学）		欠席
15	比留間 由美子	相模原市訪問看護ステーション管理者会		出席
16	廣瀬 憲一	公益社団法人相模原市病院協会		出席
17	水上 潤哉	一般社団法人相模原市医師会		出席
18	八木 克介	相模原市認知症高齢者グループホーム連絡会		出席
19	吉岡 深雪	高齢者支援センター（地域包括支援センター）		出席
20	渡辺 加代子	公益社団法人神奈川県看護協会相模原支部		出席
21	佐藤 聡一郎	連携体制等に関する部会	部会長 1	出席

(敬称略、50音順)

- 1 連携体制等に関する部会
- 2 高齢者救急に関する部会